

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組09	元気高齢者が地域で活躍できるコミュニティ構築～東京大学高齢社会総合研究機構・監修～
②対応する目標・課題	元気高齢者の活躍するコミュニティが、地域の高齢者はもとより若い世代の健康づくりも支援し、疾病・介護予防につながる元気高齢者の生きがい創出と多世代交流を生み出す。	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標: 元気高齢者による「市民健康サポーター」(登録制)	■目標値: 開始前のため0名(平成23年9月時点) ⇒ 100名(平成28年)
	■社会協働組織の会員数	■160名(平成26年2月時点) → 300名(平成28年)
④取組内容 元気高齢者が地域で活躍できるコミュニティとして、柏ビレジにおいて、会員数160名を擁するNPOビレジサポートを結成した。同NPOは、元気高齢者が地区内の虚弱な高齢者の日常生活支援を行うことを目的としているが、平成27年度においては柏の葉エリアにまで活躍の場を広げる。 具体的には、上記「まちの健康研究所 あ・し・た」において、柏の葉エリアの多彩な協力者との連携を深め、地域へ健康を浸透させるとともに、多世代が協力し合うコミュニティの醸成を図る。		
⑤エリア 柏の葉キャンパスエリア ＜市民健康サポーター育成講座＞: 柏の葉アーバンデザインセンター[UDCK]、駅前148街区複合開発内のホール、東京大学高齢社会総合研究機構内等 ＜シニア・ソーシャルビジネスの仕組み構築(事務所設置)＞: (2014年春まで)事業の主体となる柏市内の市民団体拠点内 (2014年春以降)柏の葉キャンパス駅前・141街区独立棟入居予定 ＜元気高齢者による地域活動プロジェクトとその対外発信＞: オークビレッジ柏の葉(柏の葉キャンパス駅前)、柏の葉アーバンデザインセンター[UDCK] 他		
⑥主体 ＜社会協働組織の会員増＞ NPO法人ビレジサポート ＜市民健康サポーター育成講座＞ 一般社団法人ヘルスケアイノベーションプロジェクト		
⑦活用した国等の制度		
⑧地域の関与 【既存】 ・柏市介護保険事業計画(平成27年4月策定)との連動 ・柏市医師会、柏歯科医師会、リハビリ関係者、ケアマネ協議会と適宜情報交換しながら検討中 【予定】 ・千葉大学「予防医学センター」や東京大学の高齢社会総合研究機構(Institute of Gerontology)と超高齢時代におけるサービスのあり方などを検討。		
⑨スケジュール		
23年度		
24年度		
25年度	NPO法人ビレジサポート発足	
26年度	まちの健康研究所施設のモデル事業所開設(柏の葉キャンパス駅前148街区複合開発街区内)	
27年度	まちの健康研究所への参加拡大とともに、地域の社会協働活動のサービス充実	
28年度		
29年度以降		
⑩他の取組との連携 取組名: 健康未来都市かしわ宣言 連携内容: NPOビレジサポートの参加者がまちの健康研究所で市民健康サポーターとして健康知識を習得し、地域の虚弱な高齢者に対する社会協働活動を行う中で、同健康知識を活用して高いレベルのサービスを展開する。ソーシャルビジネスの一環として、まちの健康研究所の運営にも参画する。 取組名: 地域の方で街を育てる地域カポイント制度 連携内容: 地域の市民健康サポーターに対するポイント付加の検討		
⑪自立・自律の方針・目標 これまでの介護予防事業では、参加する市民の顔ぶれが固定され、広がりやに欠け、特に必要度が高い層、即ち、引きこもりがちであったり介護予防に関心が薄いもの実際には必要性が高い層を巻き込めないというジレンマや課題があった。本事業は、まだ介護予防の必要性が薄いと考える層に対しても、ソーシャルビジネスの高度化という位置付けで、介護予防への関心を高めると共に、そのソーシャルビジネス活動を通して必要性の高い高齢者を包括的介護予防拠点に誘導することで、地域への浸透を実現させるものである。		